

第41回特別展

出土品とハイビジョンでたどる日中文化交流の点の線

正倉院の故郷 **中国の金・銀・ガラス展**

正倉院は、「シルク・ロードの終点」として中国のみならず広くペルシャなどとの広い交流を示す文化遺産の宝庫として知られているが、これら殆どが門外不出で奈良国立博物館に一部が公開されるのみである。そこで本展は、特に金・銀・ガラス器に焦点を絞って、その源流を中国国内で近年出土した考古資料で探った。これらは、海外初公開となった。

併せて正倉院の宝物については、大型ハイビジョンを使用した映像で紹介した。

会期／平成4年6月9日（土）～7月12日（日）

会場／南蛮美術館室、特別展示室1・2

主催／神戸市立博物館、中国文物物流中心、NHK神戸放送局、NHKきんぎメディアプラン

後援／外務省、文化庁、中華人民共和国大使館、兵庫県教育委員会

協賛／JR西日本、ダスキン、コクヨ、村田製作所・関西電力

協力／パイオニア

開催期間／30日

後援／29, 087人

出品件数／86件127点



※この図録は現在当館では扱っておりません。